

朝日新聞

【2014年9月4日付】



体力向上めざして 浜 学校と地域タッグ 横

全国平均を下回る横浜市の子どもたちの体力向上に、地域と学校がタッグを組んだ。横浜市神奈川区でテニススクールなどを運営する学校法人「五大」が、近くの白幡小学校の子どもたちを対象にスタートした「体力向上プロジェクト」。7月から始まり、1年間続ける計画だ。

1階ほどの間隔で配置された三角コーンにタッチしながら、子どもたちが全力で駆け抜ける。テニススクールの空きコート。トレーナー4～5人が付き、子ども

もたちを指導する。「まずは、体を動かすのが楽しい、と感じてもらえるように心がけています」と指導を担当する河村祥臣さん。

横浜市の小中学生の体力は、男女ともに平均値は全国平均を下回る状態が続く。市教委は2010年に「体力アップよこほま2020プラン」を策定。10年間かけて体力テストの記録がピークだった1985年の水準に押し上げようと、様々な対策を進めている。白幡小でもマラソン大会などの行事を取り入れるほ



はしご状の運動器具「ラダー」をまたぎながら走る子どもたち＝横浜市神奈川区

か、校庭に大きな的を設置して休み時間にボール投げができる環境を整えるなど、工夫を続けてきた。「でも、それだけでは質も量も、まだ足りないのが現状でした」と同校の玉置哲也教諭は話す。

そこで、同校の卒業生や地域住民で作る「白幡小いちよりの会」とPTAが、五大との連携を模索。五大側も、「地域の子どもの運動嫌いをなくしたい」と無料での協力を申し出た。未来のスポーツ愛好家が増えるという、テニススクールにとつての利点もある。

プログラムは学習指導要領を踏まえて考案したオリジナル。敏捷性や持久力など運動の基礎となるものが中心だ。レッスンは週1回50分。対象は1年生の希望者で、108人中73人が申し込んだ。

井上亜矢子さん(42)は、室内で遊ぶ方が好きな娘の璃子さん(7)を参加させた。「友達と楽しく運動して、体力もついてくれれば」と期待している。

(星井麻紀)

